R7初期支援型

多文化共生社会実現へ向けた東広島市多言語ホームページ及び多言語コミュニケーションアプリの利用促進
～技能実習生、留学生を含めた外国籍住民と地域住民の相互理解の促進～

大学　櫻井　里穂
広島大学
人間社会科学研究科　准教授

市担当課
生活環境部
市民生活課

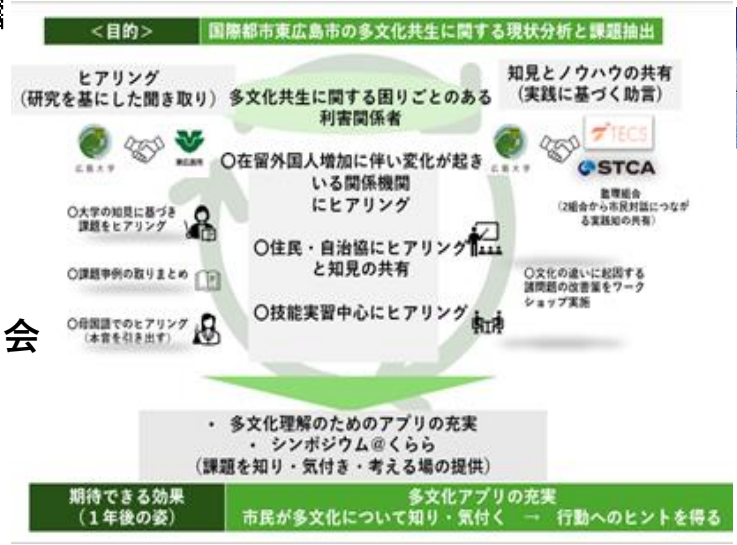
共同研究機関
協同組合技術者育成協力会（TECS）
瀬戸内テック協同組合

1 課題

外国籍住民の増加に伴い、言葉や生活習慣の違いによる相互理解不足や、治安・マナー悪化への懸念、文化差が原因となる生活トラブルなどが散見されている（令和５年度東広島市市民満足度調査）。また、外国籍住民の受け入れ関係機関（病院・保育所、学校、不動産など）の体制が追いついていない。そもそも、在留外国人と日々仕事や生活を共にする人は限定的であり、また在留資格が異なると、同じ国出身の外国人同士でもつながりはない。

2 概要

利害関係者（保育所、自治協等）へのヒアリングにより東広島市の現状を調査・分析する。同時に、大学の知と、市の経験知、そして技能実習生や特定技能と日々かかわっている監理組合の実践知をもって、生活習慣の違い等による文化差理解のノウハウの提供と課題解決に向けた情報発信を行う。改善案や事例等を市多言語ホームページやTGOアプリの多言語コミュニケーションへ展開し、年度末に東広島の住民を対象とした報告会を開催する。



▲市多言語ホームページ

▲多言語コミュニケーション

※**監理組合**：技能実習生等を雇用する雇用主（企業・個人）に代わり、受け入れ手続きや１カ月の国内講習、日常生活支援を行う非営利法人

3 到達目標・方法

(1)多文化共生に向けた課題の把握と分析

市民の多文化理解の現状や外国籍住民が東広島市で直面する双方の課題を調査・分析し、その要因を明らかにする。

(2)課題解決に向けた情報発信の強化と市民理解の促進

東広島市で直面している双方の課題について、アプリ等での情報発信により改善策を提示し、包摂的なつながりのネットワークを構築する。アプリでの発信や年度末の報告会の開催により東広島に住む住民の多文化理解を深める。